

平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人北見工業大学

1 全体評価

北見工業大学は「向学心を喚起し、創造性を育み、将来の夢を拓く教育」、「個性に輝き、知の世紀をリードし、地域特色のある研究」、「地域のニーズに応え、地域をリードし、地域の発展に貢献」、「国際的視野を踏まえた教育研究、学生・教職員の国際化を推進」を目指している。第 2 期中期目標期間においては、学士課程において確実な工学基礎能力を持った技術者を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、小グループでのディスカッション形式等にも対応し、アクティブ・ラーニング形式の授業の開講を推進するため、5 講義室（72 人規模 2 室、49 人規模 1 室及び 30 人規模 2 室）に情報機器を整備し、学生の自習・学習環境を充実させるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

学部改組に向けた取組や補助金申請等、大学改革を推進するため事務組織の再編として事務局内に学長企画室を独立させ、担当専任職員 1 人を増員して 3 人体制とすることで機能強化を図っている。また、学長裁量経費の適切な確保を行い、学長のリーダーシップの下、「表層型メタンハイドレート研究」等の特徴的な研究分野を中心に予算を重点配分するなど、戦略的に大学の強み・特色を強化している。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載17事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 一元的に対応する組織の整備

入試、教育、学生支援に係る業務の基本計画を企画立案する組織として「教育支援機構」を設置するとともに、地域貢献・国際交流に係る機能を強化し、「地域貢献」、「産学官連携」、「国際化」の推進を図るために「社会連携推進機構」を設置し、多様化する学生や地域貢献等に一元的に対応できる組織としている。

○ 学長のサポート体制の強化による大学改革の推進

事務局内に学長企画室を独立させるとともに担当専任職員1人を増員しての3人体制とすることで、学長のリーダーシップの下、ビジョンに基づく取組を機動的に遂行し、学内外の情報収集・分析や学内各課等にまたがる関連業務事項を集約的に取りまとめるなどの機能を円滑に果たし、学部改組に向けた取組や補助金の申請等、大学改革を推進している。

○ 学長のリーダーシップによる強み特色の強化

学長裁量経費を1億3,000万円（対前年度比7,038万円増）確保し、学長のリーダーシップの下、「表層型メタンハイドレート研究」等の特徴的な研究分野を中心に予算を重点配分するなど、戦略的に大学の強み・特色を強化している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 自己収入拡大への工夫

個人寄附金の税額控除の取扱いや民間財団等の助成金公募情報にかかるパンフレットを新たに作成し周知したことで、寄附金は平成26年度実績を17件、約918万円上回っている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 学生の生活環境の整備

北桜寮（女子寮）周辺の環境整備（桜植樹による景観整備、駐輪場設置）を実施し、さらなる充実を図った結果、入寮者を対象とした満足度調査では、満足度100%となっている。

○ 研究不正防止に向けた取組

研究者、研究補助者、大学院生に対して、研究不正防止のための説明会を開催する等、研究倫理教育を実施している。また、e-learning形式で受講可能なCITI Japanを導入し、受講しやすい環境を整備することで、受講対象者の受講率100%となっている。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 社会人の生涯学習支援

社会人の学び直しを目的とした生涯学習を支援するため、就労に支障を来さない範囲で、長期履修や科目等履修制度を活用した社会人学び直しの大学院コースの開設を目的として、「生涯教育支援センター」を設置している。

○ 海外大学との国際連携及び国際貢献

平成25年度に協定を締結したラ・モリーナ国立農業大学（ペルー）を訪問し、意見交換を行った結果、新たに農業やバイオ・環境分野等の共同研究につながる農・畜産業のシステム化及びバイオテクノロジーに関するテーマが発掘されている。また、産学官連携について意見交換を行い、両地域の活性化に向け連携強化を図っている。